

◆授業設計のポイント◆

- ・単元を構造的に捉え、深い学びを実現する手立ての工夫
- ・課題解決的な学習をデザインし、対話的な学びを通して、思考の広がりや深まりが生まれる手立ての工夫
- ・学習プロセスを見通し、振り返る活動の充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫

保健体育科学習指導案

学 級 3年1・2・3組（男子16名・女子16名）

場 所 伊敷中学校 体 育 館

授業者 教 諭 椎 原 純 博

1 単元球技 ゴール型「バスケットボール」

2 単元について

球技はボールを媒介として、個人対個人、集団対集団で攻防を展開し、得点を狙ったり阻止したりして勝敗を競い合い、さらに、チームの課題や自己の能力に適した課題の解決に取り組んだりゲームを楽しんだりする運動である。バスケットボールは、攻防の切り替えが早いため運動量も多く、ボールコントロールや瞬時に変化する場面に応じた判断力を高めることに適した教材である。また、パスやドリブル、シュートができたときや作戦がうまくいったとき、チームの力が集約されて勝利したときに喜びを感じることができ、練習やゲームを通して役割を分担し合ったり励まし合ったりと運動の楽しさを味わわせながら責任感や協調性を高めるのに適した教材である。

本授業の3年生バスケットボール選択者については、これまで1・2年生において、ゴール近くのセットシュートやジャンプシュート、ドリブルシュート、周囲を見ながらのドリブルやピボットターン、得点しやすい相手へのパスといったボール操作と、シュートが打てる空間に走り込む動きや、守備の際に簡単にシュートを打たれないようにボールを持っている相手をマークするなどの、ボールを持たないときの動きを学習してきた。バスケットボールの経験の差によってボール操作の技能に差が生じてはいるが、積極的にプレイし、運動量を上げて攻守に関与しようとする生徒が多い。

本授業では、1・2年生で学習したボール操作や空間に走り込む動き等に加え、より正確なシュートや状況に応じたパス、コントロールドリブルやピボットターンを使ったボールキープなどのボール操作と、パスを出したら動く、スクリーンプレイを活用するなどの空間を作り出し利用する動き、守備においては主に、守備の原則を意識したマンツーマンディフェンスを指導していく。また、学習資料や作戦ボードを活用し、生徒同士のアドバイスの様子や思考・判断している様子が共有でき、協働的な学習が展開できるような手立てとしたい。

3 単元の目標

- (1) 自己の役割や責任を果たし、練習や作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、フェアプレイに徹し、勝敗に対して公正な態度をとったりすることができる。また、自他の健康や安全を確保して、自主的に練習やゲームに取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)
- (2) 自己やチームの能力に適した課題を理解し、課題解決を目指して有効な練習方法を工夫したり、自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を工夫したりすることができる。 (思考・判断)
- (3) 状況に応じたボール操作ができ、仲間と連携することで空間を作り出すなどの動きができる。 (技能)
- (4) 技能の名称や行い方、試合の行い方、球技に関連した体力の高め方について理解することができる。 (知識・理解)

4 単元の指導計画・評価規準（全12時間）

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
指導計画	整理・あいさつ・健康観察・準備運動・体ほぐし運動											学習のまとめ（振り返り・反省）	
	I バスケットボールの特性に触れゲームを楽しむ ・特性 ・学習の見通しと進め方 ・チーム編成 ・簡易ゲーム	II 基本的な技能を高めてゲームを楽しむ ・ドリブル、パス、キャッチ、ボールキープ ・ストップとピボットターン ・セット、ランニングシュート ・ドリル、アウトナンバーゲーム（空間に走り込む動き）	III チームで連携してゲームを楽しむ ・状況に応じたパスやドリブル、シュート ・ピボットターンやコントロールドリブルを活用したボールキープ、フェイント、ポストプレイ ・マンツーマンディフェンス ・スクリーンプレイ（空間を作り出す動き）	IV 自チームの特性を生かしたり、相手チームの特性に対応したりしてゲームを楽しむ ・簡易ルールでリーグ戦を行う ・審判法の実際 ・ルールの理解	整理運動・学習のまとめ・次時の確認・健康観察・片付け								
評価規準	関心・意欲・態度	バスケットボールの特性に関心を持ち、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、自己やチームの能力に応じた作戦で仲間と連携した練習やゲームを楽しみつつ、自己の責任や役割を果たしながら、健康・安全に留意して積極的に取り組もうとしている。 ① バスケットボールの特性に触れ、仲間と積極的に関わりながら練習やゲームを楽しもうとしている。 ② 自分の責任や役割を理解し、話し合いの場に積極的に参加しようとしている。 ③ 練習やゲームの場の安全を確かめ、危険なプレイをしないなど、自他の健康・安全に留意しようとしている。											
	思考・判断	課題解決に向けた練習方法を工夫し、個人やチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選択しようとしている。 ① 仲間のアドバイスや指示を生かし、チームや自分の能力に合った課題を見つけることができる。 ② チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを選んでいく。 ③ チームの特徴や相手チームに応じた作戦や戦術を工夫しようとしている。											
	技能	安定したボール操作と、空間を作り出すなどの動きによってゴール前の侵入などから攻撃を展開できたり、守備の原則を理解しながら守備に専念したりすることができる。 ① ゲームで有効なドリブルやパス、ストップ、シュートといった基本的技能を生かすことができる。 ② スペースを活用した攻撃や、守備の原則を意識した守備を行うことができる。 ③ 技能の段階に応じて、相手との攻防に適した作戦や戦術で練習やゲームを行うことができる。											
	知識・理解	技能の名称や行い方、試合の行い方、体力の高め方について、学習した具体例を挙げたり語句を使って説明したりすることができる。 ① 基本動作や技能について、名称や動きの構造を説明したり書きだしたりすることができる。 ② 体力や技能を高めるための合理的な練習の仕方、行い方について具体例を挙げるることができる。 ③ ルールや審判法について、言ったり書きだしたり、または行動したりすることができる。											
評価機会と方法	関心・態度	①		②		②				③			
	思考・判断						①	②		③			
	技能				①			②	②		③	③	
	知識		①						②			③	
	評価方法（見取る方法・手段）												
	観察・記録	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○
カード等		○			○	○	○	○	○		○	○	

5 本時の実際（7 / 12）

(1) 題材 球技 ゴール型 「バスケットボール」

(2) 目標

- ① チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法を工夫して取り組むことができる。(思考・判断)
- ② スペースを活用した攻撃ができ、守備の原則を意識した守備ができる。(技能)

(3) 授業設計の工夫

ア 単元を構造的に捉え、深い学びを実現する手立ての工夫・・・研究の視点1

構造図を提示し、知識と技能の関係性を意識させ、具体的な学習内容と学習過程について見通しを持つことにより単元の成り立ちを理解させる。単元の成り立ちとしては、知識・技能の習得を主なねらいとする学習段階と、その活用をねらいとする学習段階があることを理解させる。

イ 課題解決的な学習をデザインし、対話的な学びを通して、思考の広がりや深まりが生まれる手立ての工夫
・・・研究の視点2

提示された構造図をもとに、チームにおける構造図を作成する。「自分たちが目指すチーム像」を単元におけるゴールの姿（達成目標）と捉え、目標達成に向けた具体的な練習内容や方法をチームで対話的に練り合い計画することで学習をデザインしていく。課題解決のための練習方法を選択・修正して実践し、思考・判断を繰り返しながら成果の確認と分析を行い、協働的に試行錯誤する追究活動を予想する。

ウ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫
・・・研究の視点3

本時における「内容目標」を達成するために、個人やチームがどのような態度や行動で活動に臨めるかを示したものを「態度目標」として設定する。また、「気付き」、「納得」したことを自分なりに整理し、記述していくことで次への「意志」、すなわち主体的な学習を進めていく意欲が持てるものとする。思考の過程や内面の変容を見取る手段としてリフレクションカードを活用する。

(4) 展開

過程	時間	学習形態	学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイント
準備 健康観察 準備運動	8分	一斉	1 準備、安全点検をする。 2 あいさつ・健康観察をする。 3 準備運動を行う。 ・ ランニング（体育館3周） ・ 体操、体づくり運動（腹筋・背筋・ジャンプ・腕立て伏せ）	○ 場の安全を確認する。 ○ 欠席者、見学者を把握し、生徒の状態を観察する。 ○ 仲間と交流し、自他の心身の状態に気付けさせながら、体操と体づくり運動をさせる。
課題追究	34分	一斉	4 本時の目標と学習の流れを確認する。 ≪内容目標≫ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 3対3のゲームで生かせるプレイを探り、ゲームで生かしてみよう。 </div> ≪態度目標≫ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 気が付いたことや疑問、意見をチーム内で共有しつつ、活動に参加しよう。 </div>	○ 本時の学習の目標や流れを理解させ、学習の見通しを持たせる。 * 構造図において、チームでデザインされた学習内容に着目させることにより、チームの課題を設定しやすくする。 <div style="text-align: right;">研究の視点2</div>

課題追求	34分	グループ	<p>5 ゲームで生かせる基本的な技能をチームで検討する。</p> <p>↑</p> <p>ゲームで生かせる基本的な技能を検討し、生かせる場面を予想してみよう。</p> <p>↓</p> <p>気付き</p> <p>「コントロールドリブルやスピードドリブルを使う。」 「チャンスがあったらドライブイン」 「セットシュートやランニングシュート」 「カットインプレイ」 「ピボットターンで体の向きを変えられる。」 「パスの使い分け。」 「マンツーマンディフェンス」 「パスを出したら動く。」 「ディフェンスの姿勢」</p>	<p>○ これまでの学習を想起させる学習資料や映像などを提示することにより、活用できるプレイや場面を予想しやすくする。また、作戦ボードを利用することにより活動を具体化したり動きを確認したりしやすくする。</p>
		グループ	<p>6 基本的な技能を生かせる具体的な場面が予想できたら、チームの特徴も考慮しながら練習する。</p> <p>↑</p> <p>チームの特徴を生かした変化のある攻防を楽しむためにはどうすればよいだろうか。</p> <p>↓</p> <p>納得</p> <p>「ポストプレイでゴールに近いところでボールをキープ」 「空いたスペースへ走りこむ。」 「動いて、空いたスペースへ次の人が入り込む。」 「3ポイントシュートのフェイントからのドライブイン」 「カットインプレーへのサポート」 「ポストプレイヤーへのサポート」 「スクリーンプレイを利用してみる。」 「動きの連動」</p>	<p>○ 「空いたスペースへの走り込み」や「スペースを作り出す動き」を意識させ、カットインプレイやポストプレイ、スクリーンプレイといった変化のある攻撃を展開できるようにする。</p> <p>○ マンツーマンディフェンスにおける守備のポイントを押さえさせる。</p> <p>◎ チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法を工夫して取り組もうとしているか。</p>
		グループ	<p>7 3対3のゲームをハーフコートで行う。</p> <p>↑</p> <p>練習の成果をゲームで生かしてみよう。うまくいったところや課題となることをチームで明確にしよう。</p> <p>↓</p> <p>意志</p> <p>「5対5のゲームでは、役割をはっきりしたほうがよさそう。」 「チームの連携をもっと高めたい。」 「スペースを使えると攻撃しやすい。」 「個の特徴をもっと生かしたい。」</p>	<p>○ 簡易ルールで行うため、体の接触に関する反則は取り、トラベリングや3秒ルールは厳しく取らない。</p> <p>○ 攻撃側が得点を上げるか、守備側がボールをカットしてセンターラインまでボールを持ち運ぶまでゲームを続ける。</p> <p>◎ スペースを活用した攻撃ができ、守備の原則を意識した守備ができるか。</p>

整理運動 評価・反省 健康観察 あいさつ	8分	グループ	8 整理運動をする。 9 本時を振り返り，評価・反省を行う。	○ 入念に整理運動をさせる。 * リフレクションカードを用いて「内容目標」と「態度目標」について振り返り，次の学びへとつなげられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">研究の視点3</div> ○ 次時の学習内容や目標を伝え，更なる学習意欲を喚起させる。 ○ 生徒の体調を確認し，後片付けをさせる。
		一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 本時の目標について反省し，チームの成果や課題を互いに共有し合おう。 </div> 10 次時の学習内容を確認する。 11 健康観察・あいさつをする。	

(4) 評価

- ① チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法を工夫して取り組もうとしたか。(思考・判断)
- ② スペースを活用した攻撃ができ，守備の原則を意識した守備ができたか。(技能)